

(費用対便益分析とは)

費用(Cost)と便益(Benefit)の比較によって評価する手法を費用対便益分析という。その際の評価基準には、費用便益比(CBR:Cost Benefit Ratio、いわゆる B/C)などが用いられる。費用便益比のほかに、貨幣換算できない効果を含めて評価する手法を費用対効果分析という。

費用対便益分析においては、図 I -2.2 に示すように年度別の事業計画(供用期間、更新時期等)に基づいて、費用と便益の年度別の発生状況を年表形式で整理する。

次に、図 I -2.3 に示すように割引率を勘案の上、現在価値化した総費用及び総便益を算定し、比較する方法が一般的である。

なお、費用対便益分析に当たっての基本事項は、「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針」(平成 16 年 2 月 国土交通省)(以下、「準拠指針」という。)に準拠した。

(本マニュアルにおける算定方法)

本マニュアルでは、費用及び便益の算定に2つの方法を用いている。事業と計算方法との対応は「4-1.算定方法と適用事業」を参照のこと。

(1)換算係数法:費用及び便益を換算係数により現在価値化する方法

(2)年次算定法:各年度の費用及び便益を図 I -2.3 のように個別に現在価値化する方法

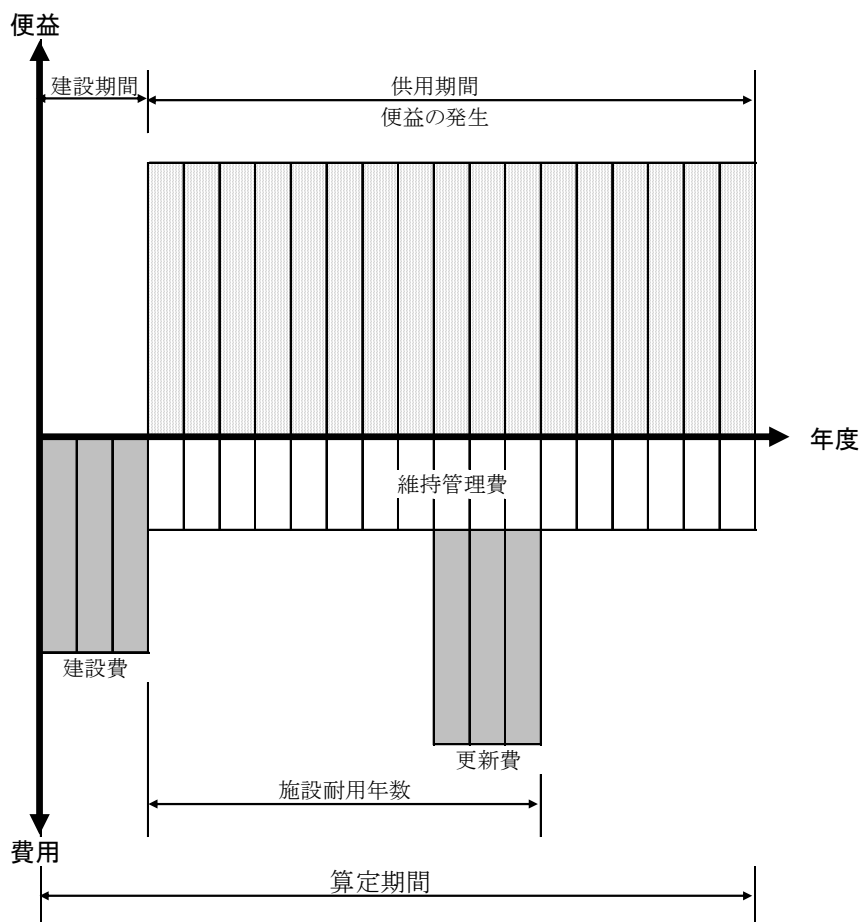


図 I -2.2 費用と便益の年度別の発生状況